

平成20年度広島県大学図書館協議会事業一覧

事項	月日	項目	会場	出席
会議	5月22日	第1回研修企画委員会	広島大学	7機関12名
		第1回幹事館連絡会議		5機関9名
	6月20日	平成20年度総会 講演 講師:池田 明子(作家) 演題:吟醸酒を造った男	広島修道大学	23機関39名
	7月3日	第1回共同リポジトリ委員会	広島経済大学	12機関20名
	12月10日	広島県内図書館連絡会議	広島県立図書館	7機関12名
	3月6日	第2回共同リポジトリ委員会	広島経済大学	13機関25名
事業	9月17日	第1回研修会 テーマ:先進的公共図書館を見学し、地域への図書館の役割・地域利用者のための図書館とは何かを考える。 <施設見学>	岡山県立図書館 (岡山市)	14機関23名
	10月29日 -30日	第2回研修会(広島大学ほかと共催) 「DRF/ShaRe地域ワークショップ広島」 機関リポジトリの拡大を目指して:知識の共有と共同構築 1.機関リポジトリ実務担当者研修 2.講演 「国立情報学研究所の機関リポジトリ支援戦略」 (国立情報学研究所・安達淳) 「NII学術機関リポジトリ構築連携支援事業」 (国立情報学研究所・杉田いづみ) 3.共同リポジトリ構築事例報告 (埼玉・岡山・山口・長崎・山形・広島) 4.グループ討議 主催:DRF(デジタルリポジトリ連合 代表:北海道大学附属図書館) ShaRe(共同リポジトリプロジェクト 代表:広島大学図書館) 共催:国立情報学研究所・広島県大学図書館協議会 協賛:中国四国地区大学図書館協議会 <実務研修>	広島大学	34機関67名
	12月4日	第3回研修会 テーマ:「目録の基礎」 1.基調講演 講師:渡邊隆弘(帝塚山学院大学准教授) 演題:図書館目録の伝統と近未来:守るべきことと変えるべきこと 2.パネルディスカッション 楯 幸子(安田女子大学)・辻水衣(広島経済大学)・山中知美(広島大学) 3.グループ討議 <講演及び実務研修>	安田女子大学	19機関35名
	1月29日	第4回研修会(広島大学ほかと共催) ワークショップ:新しい学術情報利用システムを考える 「大学における研究・教育活動と電子リソース利用の現在」 1.「NII Goes Open! 新CiNii,新KAKEN,次世代目録」 大向一輝(国立情報学研究所) 2.「書籍と学術論文の検索サービス:グーグルブック検索とグーグルスカラー」 佐藤陽一(グーグル株式会社) 3.「NDLデジタルアーカイブポータル(PORTA)の現状と将来」 柴田昌樹(国立国会図書館関西館) 4.「タクソノミー、キーワード検索、そしてフォークソノミー」 平川正人(島根大学総合理工学部) 5.「社会連携事業における検索エンジンの利用と期待」 北條充敏(岡山大学附属図書館) 6.「学術情報マネジメント、ERMS、次世代OPAC」 片岡真(九州大学附属図書館) 7.共同討議 主催:国立大学図書館協会中国四国地区協会 共催:中国四国地区大学図書館協議会・広島県大学図書館協議会 <講演および事例報告>	広島大学 (東広島市)	31機関71名
刊行	1月	会報第38号発行		100部

平成 20 年度広島県大学図書館協議会総会議事のまとめ

日時 平成 20 年 6 月 20 日 (金) 13:30～16:30

会場 広島修道大学 7 号館 学術ホール

〒731-3195 広島市安佐南区大塚東 1-1-1 tel.082-830-1112

参加 23 大学 38 名

1. 開会 当番館 広島修道大学図書館
2. 挨拶 当番館 広島修道大学図書館長 森川 泉館長
代表幹事館 広島大学図書館長 田中 久男館長
3. 講演会 講師 池田 明子氏
演題 『吟醸酒を創った男』
4. 議長選出 慣例により、今総会当番館の広島修道大学 森川泉館長を選出した。

報告に先立ち、各参加館参加者より自己紹介を頂いた。

5. 報告

(1) 平成 19 年度事業について

代表幹事館の広島大学白木氏より、平成 19 年度事業広島県図書館協議会事業一覧にもとづき報告があり、異議なく承認された。

(2) 平成 19 年度決算及び監査報告について

事務局の広島大学尾崎氏より、平成 19 年度決算書に基づいて決算報告があった。また、監査館の福山平成大学竹本氏より、監査報告書に基づいて監査報告が行われ、異議なく承認された。

(3) 平成 19 年度広島県内図書館連絡会議について

広島県内図書館連絡会議委員館の広島修道大学吉村氏より、平成 19 年度第 1 回広島県内図書館連絡会議記録に基づき次のような報告があり承認された。1) 大学図書館と公共図書館の連携については、2 年前から協議を進めている。しかし、検索システムの問題や搬送の問題など解決を図らなければならない問題がある。2) 県立図書館は、システム更新を計画しているが、県の財政難から 2008 年度は予算獲得ができず 2009 年度に向けて、当協議会に後押し協力要請があった。3) この件については、協議事項で詳しく説明さ

れる。

(4) 広島県大学共同リポジトリの公開について

広島経済大学西川氏より、広島県大学共同リポジトリの公開について今後も参加館の増加を促し、利便性を図りたい、と報告があった。続いて広島大学尾崎氏より、パワーポイントを用いて広島県大学共同リポジトリの現状、今後の展望について説明があった。

また、広島大学石井氏より、CSI 委託事業報告交流会において広島地域、山形地域における大学共同リポジトリ運用のユニークさについて紹介があった。

6. 協 議

(1) 平成20年度事業計画（案）について

広島大学白木氏より、平成20年度広島県大学図書館協議会事業計画（案）にもとづき、提案説明があり、原案どおり承認された。

(2) 平成20年度予算（案）について

広島大学尾崎氏より、広島県大学図書館協議会平成20年度予算書（案）にもとづき提案説明があり、原案どおり承認された。

(3) 広島県大学図書館協議会から広島県立図書館に対する要望書の提出について

広島大学白木氏より、資料に基づいて提案説明があり、「館種を異にするサービス機関・・・」という部分の表現を修正し、広島県立図書館長宛てに提出する要望書を承認した。

(4) 会費に関する事項（内規）の変更について

広島大学白木氏より、広島県大学図書館協議会会則の内規における加算額の基礎となる「館員の範囲」についての定義があいまいなため、表現の一部を修正したい旨提案説明があり、承認された。

(5) 広島県大学図書館協議会のホームページの作成について

広島大学尾崎氏より、資料に基づいて本協議会のホームページ作成について、提案説明があった。これを受けて、1) コンテンツ作成費用はどうするのか、2) 印刷物の削減が可能となり、経費の節減が期待できる、などの質問や意見があった。

コンテンツについては、規約や参加館名簿、研修会資料などのすでに作成されている資料を前提としている。また、その作業は、事務局（広島大学）が担当するので経費は掛からない、との説明があり承認された。

(6) 20-21年度の幹事館の選出について

投票の結果、

国立大学グループ：広島大学、公立大学グループ：広島市立大学、私立大学グループ：広島経済大学、広島工業大学、広島修道大学、短期大学グループ：呉工業高等専門学校が選出された。

なお、公立大学グループは、広島市立大学と県立広島大学が、短期大学グループは呉工

業高等専門学校と鈴峯女子短期大学が得票同数のため、それぞれ協議により決定した。

(7) 代表幹事館の選出について

広島経済大学西川氏より、代表幹事館に広島大学を推薦したいと提案があり承認された。

これを受けて、広島大学田中館長より代表幹事館を担当するに当たっての挨拶があった。

(8) 次期監査館について、(9) 研修企画委員館の選出について、(10) 次期広島県内図書館連絡会議委員館について、(11) 次期当番館について、一括して報告することとした。

広島大学白木氏より、上記4協議題については6月8日に開催した幹事館連絡会議で以下のとおり推薦することが決定している旨説明があり、承認された。

次期監査館：安田女子大学

研修企画委員館：広島大学、広島市立大学、日赤広島看護大学、広島経済大学、広島女学院大学、近畿大学工学部、呉工業高等専門学校、広島修道大学

次期広島県内図書館連絡会議委員館：広島市立大学、広島経済大学、広島修道大学

次期当番館：広島国際学院大学

7. 承合事項

(1) ILL 文献複写料金の単価設定について

(2) 入館者数及び貸出冊数の動向について

(3) IC カード学生証（図書館利用証）の導入予定について

上記3事項について広島女学院大学土屋氏より、回答内容を精査し、必要に応じて該当館に確認したいと回答に対するお礼と報告があった。

なお、土屋氏より ILL における資料返却の取り扱いについて、現行では、国公立大学図書館の申し合わせにより、書留扱いとなっているが、宅急便を使用できないか追加提案があった。

これに対し広島経済大学西川氏より、当事館どうしの個別対応で対処できるのではないかと意見が述べられた。

(4) 新聞・雑誌の保存年限について

(5) 図書館内で提供するパソコン等情報機器の整備状況について

上記2事項について広島市立大学渡辺氏より、回答内容を精査し、必要に応じて該当館に確認したいと回答に対するお礼と報告があった。

8. 閉会の挨拶

次期当番校の国際学院大学奥田勉館長より、閉会ならびに次年度当番校としての挨拶があった。

閉会后、希望者に対して図書館見学があった。

以上

広島県大学図書館協議会 平成20年度決算書

1 一般会計

収入の部

科目	予算額(円)	決算額(円)	備考
前年度繰越額	162,341	162,341	
会費(平成20年度)	260,400	260,400	
預金利子	181	236	
合計	422,922	422,977	

支出の部

科目	予算額(円)	決算額(円)	備考	
A. 事業費	1. 総会費	40,000	40,000	会場費(広島修道大学), 講演謝金(税込)
	2. 役員会議費	5,000	0	
	3. 研修会費	80,000	78,440	会場費(安田女子大学), 講演謝金・旅費(税込)
	4. 印刷費	90,000	88,200	会報第38号印刷
	5. HARP補助金	30,000	30,000	
	小計	245,000	236,640	
B. 事務費	1. 通信費	10,000	13,370	会費請求書送料、会報第38号配布送料
	2. 消耗品費	10,000	315	会費請求書送付用封筒
	3. 雑費	10,000	0	
	小計	30,000	13,685	
C. 予備費	147,922	0		
D. 翌年度繰越額	0	172,652		
合計	422,922	422,977		

広島県大学図書館協議会 平成20年度決算書

2 臨時事業費(JLA会費還付金の積立)

収入の部

科目	予算額(円)	決算額(円)	備考
前年度繰越額	674,160	674,160	
JLA還付金	31,825	32,500	
預金利子	1,284	845	
合計	707,269	707,505	

支出の部

科目	予算額	決算額	備考
一般会計への繰入	0	0	
予備費	707,269	0	
翌年度繰越額	0	707,505	
合計	707,269	707,505	

3 共同リポジトリ事業費

収入の部

科目	予算額(円)	決算額(円)	備考
会費	330,000	330,000	
協議会よりの補助金	30,000	30,000	
預金利子	0	111	
合計	360,000	360,111	

支出の部

科目	予算額	決算額	備考
サーバ保守費	252,000	252,000	
振込手数料	0	840	
更新積立金(翌年度繰り越し)	108,000	107,271	
合計	360,000	360,111	

監査報告書

金銭出納簿，預金通帳及び関係書類を監査した結果，適正かつ正確であることを認めます。

平成 21 年 4 月 1 日

広島県大学図書館協議会

監査館 安田女子大学図書館

館長

五 田 健 二



平成20年度広島県内図書館連絡会議記録(概要)

日時 平成20年12月10日(水)

15:00~16:30

場所 広島県立図書館応接室

1 開会

委員

広島経済大学図書館部長 西川英治
広島経済大学図書館係長 岡崎純子
広島修道大学図書館次長 常広一信
呉市中央図書館館長 中原秀幸
広島市立中央図書館事業課館内サービス係長 出原陽子
広島県立図書館調査情報課課長補佐兼図書利用係長 竹島克子

事務局

広島県大学図書館協議会 白木俊男
広島県大学図書館協議会 江森早穂
広島県公共図書館協会 黒川隆久
広島県公共図書館協会 今村英男
広島県公共図書館協会 鍛冶美和子
広島県公共図書館協会 正井さゆり

2 議 題

(1) 大学図書館等と公共図書館の連携について

◆現在までの連携事項

- ・新聞目録, 行事, 研修会, 広島市立中央図書館と広島大学・広島市立大学との連携

◆広島市立中央図書館と広島大学・広島市立大学との連携

- ・9月から週1回連絡便広島大学(千田町)と市立図書館へ配送している。利用申込は, 広島大学へは搬送便の中に申込書を入れ, 市立大学へはFAX申込をしている。利用は2ヶ月で5~40冊(貸出・借受)。広大から広島市へは, 専門書, 広島市から広大へは一般書が多い。大学図書館を直接訪ねるのは敷居が高いと感じられる利用者もあり, 広島市立をとおして申し込まれることもある。

(※追記: その後、広大へもFAX申込として事務スピードはアップした。)

- ・また講演会や展示会等で大学の蔵書や活動を紹介している。
- ・広島大学での反応は, 学生に広報が行き届いていないが, 一般の方が「新聞で見た」と言われてこられる。

◆その他の図書館

- ・一般的に, 大学-公共の貸借では, 大学が一般書を借りることが多い。(一般書を購入するゆとりがない) 図書貸借だけでなく, 大学教授と公立図の間を大学図書館がとりもって, 講演会などの行事の手伝いができる。また, 職場の人事交流・研修受入なども考えることができる。
- ・経済大学でも, 学外利用が多く, 以前に比べて学術書より一般書が増えている。学生の利用が少なく, 利用増のために一般書・文芸書も購入している。公共図との連携は特にない。一般公開している。
- ・県内または市立図物流ルートに修道大学を入れてもらえば, 検討できる。学外利用が多い。一般書も増えている。文芸書。ライトノベル等も入れているが, 平均貸出冊数は減っている。
- ・公立図書館の郷土資料は大学図書館へ貸してもらえるのか。
←複本があるものは可能。1冊しかないものは貸出ししていない。(広島市), 禁帯出の郷土資料は館内利用を条件に貸し出している。複本がないものはしていない。ただし県内の図書館の場合は原則貸出期間2週間で貸出している(県立)
- ・大学図書館では, 相互貸借・複写等利用者負担が原則。
- ・県立図書館では複写料金等実費を負担してもらっている。

- ・福山市立中央図書館では特に連携はない。
 - ・県立では I L I 複写について、県内公共図書館の申込代行を行っている。
 - ・鳥取では、物流便・インターネットと条件が整っていた。
- ◆今後の連携について
- ・公共図書館の側の大学図書館との連携強化の意図は何か。
←県民の求める資料を提供したい。
 - ・物流システムができあがると連携が違ってくる。(よくなる。) 広大-広島市立のように既存の物流システムをつなぐ等できないだろうか。
(※追記：現在、広大では搬送便の増便を検討中)
 - ・県立-広大千田図書館便を検討中。県内物流往復費用を予算要求中。他大学との整合性という課題もある。
 - ・県内大学-公共図書館間の相互貸借・複写支払いの方法をたとえば郵パック等に統一できないか。
←各館で事情が異なるので困難。
 - ・相互貸借の物流センターを県立図書館が行うことはできないか。
 - ・蔵書検索+相互貸借+インターネット予約等公共図書館として検討し、確立していかなくてはならない。
 - ・一般市民からもっと図書館を利用したいという要望が出るようにしないと、図書館だけが必要だと言っていてはだめである。図書館で将来構想などを県民の意見をきく場面を設け、県民からの意見を取り入れることで、行政を動かさないといけない。
 - ・鳥取で大学-公共の連携が実現したのは、大学から呼びかけたため。公共からは敷居が高い。
 - ・大学の行事情報を市町図書館へも提供してほしい。
←県立：チラシ等配ることはできる。
(※追記：現在情報提供の頻度は上がっている)
 - ・県内大学図書館リポジトリの説明。2年間補助金を受けて、県内大学の紀要等の遡及入力をしている。
- ◆総合目録・横断検索(来いぶらりネット)について
- ・大学図書館協議会から要望書お礼。来いぶらりネットの更新を目指して予算要求中。
 - ・来いぶらりネット更新の内容、スピードアップ、フル装備の目録情報、横断検索機能の強化、インターネット予約、メールマガジン等。
(※追記：予算配分がされ、平成22年1月の稼働を目指して作業中だが、予算面からバージョンアップは見送られた。)
 - ・各市町単独のシステムではなく、県レベルでオープンシステムを考えるべきではないか。各図書館がそれぞれカスタマイズして、客観的に見ると無駄なことをしているように感じる。特に書誌部分は共有すればよいのではないか。部分的に合う部分だけでも修正できないのか。今の持っている情報を捨てて、資料番号のみを残して統合する等大胆な発想が必要。資料情報・貸出・プログラムをパーツとして分けて組み込んで行く、レンタルサーバなど。
←実務・契約等の問題でかなり難しい。

(2) その他

平成 20 年度共同リポジトリ委員会報告

1. 委員会の開催

第 1 回委員会 平成 20 年 7 月 3 日 (広島経済大学図書館)

- 議 題：①平成 20 年度事業案について
②平成 20 年度予算について
③CSI 委託事業実行案について

第 2 回委員会 平成 20 年 2 月 20 日開催 (広島大学図書館)

- 議 題：①平成 21 年度 CSI 委託事業作業計画案について
②平成 21 年度 HARP 事業計画案について
③共同リポジトリ委員館の改選について

2. HARP の活動

- 2008.4 正式公開 (11 大学参加)
2008.6 CSI 委託事業採択
2008.7 第 6 回勉強会
※朝日新聞広島版に HARP の記事掲載
※「大学図書館研究」82 号に論文掲載
(「共同リポジトリの試みー広島県大学共同リポジトリ(HARP)ー」)
2008.8 CSI 事業アルバイト雇用開始 (広島経済大)
第 39 回大学図書館問題研究会全国大会 (発表：広島経済大)
2008.9 平成 20 年度公立大学協会図書館協議会研修会 (発表：広島市立大)
埼玉県大学・短期大学図書館協議会幹事会 (発表：広島大・広島市立大)
2008.10 第 7 回勉強会
第 49 回中国四国地区大学図書館協議会研究集会 (発表：日赤広島看護大)
DRF/ShaRe 地域ワークショップ広島 (発表：日赤広島看護大)
2008.11 長崎県大学図書館協議会研修会 (発表：広島経済大・広島工業大)
新潟県大学図書館協議会研修会 (発表：広島大)
2008.12 DRF/ShaRe 地域ワークショップ山形 (発表：広島大)
2009.2 沖縄地域学リポジトリ試験公開記念講演会 (発表：広島大・広島文教女子大)
平成 20 年度 CSI 委託事業終了。コンテンツ数：2,770 件
2009.3 第 8 回勉強会
※大学の図書館 28 巻 2 号に論文掲載 (「HARP と私」)
2009.4 比治山大学が参加
※文科省 H19 年度学術情報基盤実態調査「大学図書館の特色ある取組」に掲載
2009.6 ※「情報管理」53 巻 2 号に記事掲載
CSI 委託事業採択

3. その他

・2009 年 4 月現在日本国内では、広島他に、山形・新潟・埼玉・福井・岡山・山口・沖縄の計 8 つの共同リポジトリが構築・運営されており、広島はその先駆モデルの一つである。

CSI 委託事業領域 2 「共同リポジトリ：モデルの構築と普及」

<http://www.lib.hiroshima-ua.c.jp/share/share.html>